

基本的な考え方

- ◆環境基本計画は、**環境施策の大綱**であるため、5つの基本施策ごとに包括的な成果指標を定め、目標値を設定する。
 なお、今後改定を予定している**部門別計画にて、環境基本計画の方向性に沿ったより具体的な指標を設定し、環境基本計画・部門別計画をあわせて進捗管理**を行っていく。
- ◆また、成果指標を補完する指標として、施策の推進(例：プラスチックの分別収集導入など)が**市民にどのように影響を与えているのかを測る参考指標(市民意識)を設定し**、総合的・計画的に推進していく。

環境基本計画 指標

■ 成果指標

	指標	現状値	目標値
脱炭素	温室効果ガス排出量	25%減	実質ゼロ
経済循環	ごみ処理量	50.5万トン	47.0万トン
多様性(生物)	貴重・希少生物等の確認種数	255種	増加
環境生活	大気・騒音・水質の各環境基準達成率 (全7項目)	騒音以外 100% 騒音 95.5%	騒音以外 100% 騒音 97.0%
連携(広域)	海外からの研修・視察受け入れや 海外への技術協力等による国際貢献・協力件数 (廃棄物管理・上下水道技術)	159件 (R元~R5年実績)	400件 (10年累計)

参考指標: 市民意識

「**そう思う**」「**どちらかといえばそう思う**」の合計値。()内の数値は「**そう思う**」のみの数値。

	指標	現状値
変容(行動)	日頃から環境に配慮した暮らしを実践している市民の割合	90.9% (32.2%)
	環境問題の解決には、市民自らが行動することが必要と強く思う市民の割合	90.8% (51.5%)
連携(事業者)	環境に配慮した活動を行う企業が増えていると思う市民の割合	76.8% (23.7%)
	環境に配慮した商品やサービスを目にする機会が増えていると思う市民の割合	83.5% (34.0%)
脱炭素	市民や企業、行政などが脱炭素に取り組んでいると思う市民の割合	52.2% (9.0%)
	市民や企業、行政などが気候変動に伴う影響に備えていると思う市民の割合	63.6% (14.0%)
経済循環	市民や企業、行政などによるごみの削減やリサイクルの取組みが進んでいると思う市民の割合	69.2% (14.2%)
	ごみや資源物が出しやすく、その収集や処理も適正に行われているまちだと思ふ市民の割合	84.0% (39.9%)
多様性(生物)	生物多様性の意味を理解し、その保全につながる行動をしている市民の割合	28.2% ※
	豊かな水辺や緑に親しむことができる空間が維持・整備されていると思う市民の割合	70.8% (18.5%)
環境生活	生活環境(空気、水のきれいさ、静けさ、におい・かおり)の状況が良好だと思ふ市民の割合	75.9% (20.4%)
	まちの景観が保たれ、ごみがない美しいまちづくりが進んでいると思ふ市民の割合	77.9% (20.6%)
連携(広域)	福岡市と近隣地域とが協力して、自然や生活環境が保たれていると思ふ市民の割合	66.5% (15.8%)
	福岡市の環境技術がアジアや世界に貢献し、存在感を高めていると思ふ市民の割合	46.6% (14.0%)

各節各項(2つ)に
対応した指標を設定

※ 「第10次福岡市基本計画 第1次実施計画」と同様の指標で、「理解して行動している」市民の割合を設定。

部門別計画 指標

脱炭素

福岡市地球温暖化対策実行計画

<指標例(現計画)> ※R8年度改定予定

世帯あたりのエネルギー消費量

床面積あたりのエネルギー消費量

乗用車新車販売台数に占めるガソリン車の割合

再生可能エネルギーによる設備導入量

など

循環経済

循環のまち・ふくおか推進プラン

<指標例(現計画)> ※R7年度改定予定

市民1人1日あたりの家庭ごみ処理量

1事業者1日あたりの事業系ごみ処理量

リサイクル率

地域集団回収の利用率

など

生物多様性

生物多様性ふくおか戦略

※現計画を改定し適切な指標を設定
予定(R8年度)